

令和2年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 3 年 6 月 4 日 作成

事務事業名	ヘルスケアプロジェクト事業	外部評価の状況	事務事業No.	311 - 4 1
		なし		

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
市民協働部	健幸都市推進課	健幸都市係	主任	竹上 満喜子	課長	瀬尾 善忠
施策体系	総合計画	政策	3	健幸・子育て		
		施策	1	健幸都市づくりの推進		
		基本事業	1	健幸都市づくりの推進		
	その他の計画	個別計画	第2次いいづか健幸都市基本計画			
根拠法令・条例・要綱等	なし					
事業開始年度	令和2年度	事業終了年度	令和6年度	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	全部委託	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	令和2年度～令和5年度	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	SWC首長研究会に加盟する本市を含む4市町で連携(飛び地型自治体連携)し、市民(主に健康無関心層)への大規模ヘルスサービス(健幸ポイント等)を実施することで、医療費・介護給付金の抑制及び年齢問わず生きがいをもった生活を送ることのできる「健幸都市いいづか」の構築を目指すもの。					
対象	働きかける相手・もの	20歳以上の市民				
手段	方法・働きかけ(活動指標)	市報等による広報、参加者(健幸アンバサダー)によるロコミ				
意図	対象をどのようにしたいか(成果指標)	市民に事業に参加してもらい、歩く習慣を身につけてもらう。				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明(算式等)	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明会実施回数	回	事業参加者に継続して参加してもらうために実施する説明会	0	39	39
健幸アンバサダー講座	回	情報発信を行うインフルエンサーの養成	0	8	5

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
健幸ポイント事業参加者数	人	6,540	0	650	2090
	方向性	達成目標年度	実績	0	872
	増加	令和5年度	達成率	#DIV/0!	134.15%
健幸アンバサダー数	人	1,500	0	150	260
	方向性	達成目標年度	実績	0	178
	増加	令和5年度	達成率	#DIV/0!	118.67%
歩数増加者の割合	%	60	0	60	60
	方向性	達成目標年度	実績	0	52.6
	増加	毎年度	達成率	#DIV/0!	87.67%

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 4 衛生費	項 1 保健衛生費	目 3 健康づくり推進費	大 5 地域再生計画事業費	中 1 ヘルスケアプロジェクト事業費【政策】	他 0 事業			
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	区分(R1まで)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)		
	正職員	正職員	0.00	人 0	0.12	人 946	前年度実施なし	1.01	人 7,959	
	任期付職員(保育士)	任期付職員(保育士)	0.00	人 0	0.00	人 0		0.00	人 0	
	任期付職員(CW・水質)	任期付職員(CW・水質)	0.00	人 0	0.00	人 0		0.00	人 0	
	再任用フル	再任用フル	0.00	人 0	0.00	人 0		0.00	人 0	
	再任用短	再任用短	0.00	人 0	0.00	人 0		0.00	人 0	
	嘱託職員	1級フル	0.00	人 0	0.40	人 1,083		0.50	人 1,353	
	臨時職員	1級パート	0.00	人 0	0.00	人 0		0.00	人 0	
		2級パート		人	0.00	人 0		0.00	人 0	
	人件費計(A)			0		2,029		9,312		
事業費	直接事業費(B)		0		27,728			50,373		
	総事業費(A+B)		0		29,757		59,685			
直接事業費のうち の主な歳出内訳	委託費		0		27,418		44,621			
	消耗品		0		229		407			
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0		0		0			
	国・県支出金		0		12,285		33,573			
	市債		0		0		0			
	一般財源		0		17,472		26,112			
その他()										

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	医療費・介護費の削減を目標として実施するものであり、市の財政状況を改善させる事業であるため、妥当である。
	目的の妥当性	妥当	市民の健康増進を促し、一人一人の運動習慣の定着に繋がるため、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	市民が生きがいを持った生活を送れるよう、健康寿命の延伸を図るものであり、また市民個人の医療費・介護費の削減にもつながるため、妥当である。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	事業開始初年度であり、機器等の初期投資が必要であったため、削減の余地はない。
	負担割合の適正化	適正	受益者負担なしのため、適正である。
	手段の最適性	検討の余地あり	スマートフォン利用参加者についてはデータが送信できない等のエラーが多く出たため改善の余地がある。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	健幸ポイント事業参加者目標の650人を上回ることができた。
	上位施策への貢献度	貢献できた	参加者の平均歩数が大幅に上昇し、市民の運動に対する意識が芽生えていることが確認できた。
	事業継続の有効性	ある	現在でも事業参加希望者が多数存在している。市民の健康増進のため事業継続の必要がある。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	前年度実施なし。
なし	なし	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	前年度実施なし。

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

前年度実施なし

8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★

【成果】	健幸ポイント事業の意義を市民に周知することができた結果、目標参加人数を達成することができた。
【課題】	市報等の周知では限界があるため、今年度事業参加者の口コミ等、参加等の方法を考える必要がある。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充 現状維持 縮小 休・廃止	④ ② ①				評価区分	事務事業の方向性
		③ ⑤	⑥				
	⑦					二次評価	①コスト・成果ともに拡充
		休・廃止	縮小	現状維持	拡充		
コスト投入の方向性							

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策	「運動無関心層」を取り込むための「健幸アンバサダー」について、新規事業参加者への説明時に健幸アンバサダー登録の案内を行い、登録者の増加を図る。
コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策	機器等を拡充し、データ送信機器及び拠点の増加を実施する。

評価変更理由	担当課は記載しない。
--------	------------